



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「日本で受けた親切をシエラレオネで 号」

2012年6月28日 (Vol.27)

目次

はじめに ー大統領にプロジェクト成果品を進呈ー

1. プロジェクト進捗報告

- 1.1 県開発モデル構築：フィーダー道路改修プロジェクト
- 1.2 研修計画・実施支援
- 1.3 村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクト
- 1.4 ブルンジ第三国研修受け入れ

2. 専門家の一日 ー「やる気」を高めたいー

3. 大好評のコラム

ごつつあんです、シエラレオネ！第22話 ーこじやれたシエラレオネ料理との出会いー

*プロジェクトHPにもアクセスください

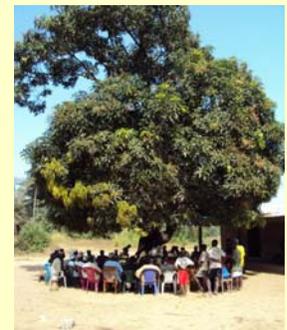
い：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>



シエラレオネ



プロジェクト対象県



はじめに ー大統領にプロジェクト成果品を進呈ー

今回のプロジェクトニュースも、内容が盛りだくさんです。現場では、事業完了に向けて関係者一同さらに多忙な日々が続きます。また、全国の地方行政関係者を招いての県・村落開発ハンドブック委員会での協議、ブルンジの第三国研修の皆さんの受け入れ、シエラレオネのコロマ大統領も出席したパラマウントチーフの就任式への参加など、多くの行事がありました。

6月8日、CDCDプロジェクトが支援しているポートロコ県のパラマウントチーフ就任式に招待され、プロジェクト関係者一同及びブルンジからの第三国研修参加者皆さんと共に出席しました。

大統領も出席した同式典には、複数の大臣、地方行政要職、地元有力者など数百人が出席しました。会場周辺には多くの人々が立ち見をしています。普段は静かなこの町のにぎわいを見て、改めてパラマウントチーフの存在の偉大さを感じました。

式典での大統領の式辞で「シエラレオネの伝統と文化を大切にしていきたい。」という言葉が印象的でした。本プロジェクトでも、地方開発におけるパラマウントチーフと地方行政関係者との連携強化について十分に留意していくように働きかけています。

ポートロコ県議会議長の挨拶では、CDCDプロジェクトのポートロコ県での活動や成果を広く伝えていただきました。また、式典の最後には、地方自治地域開発省大臣の案内により、CDCDプロジェクトが作成・普及支援している地方行政関係者向けの実務書「県・村落開発ハンドブック」、「プロジェクト進捗レポート」などの成果品を直接大統領にお渡ししました。このようにプロジェクトを推進しようとする大臣、議長の取り計らいはありがたい限りです。

本省副大臣によると、「大統領は内容をしっかり読む方なので、ハンドブックにも必ず目を通すでしょう。」とのこと。今回の機会は本プロジェクトの関係者の励みになると共に、ハンドブックの全国普及に弾みがつく素晴らしい機会となりました。

(平林リーダー)



新しく就任したパラマウントチーフ



式辞を述べる大統領



式典にてプロジェクト成果品を進呈（右から、地方自治地域開発省大臣、大統領）。

1. プロジェクト進捗報告

1.1 県開発モデル構築・フィーダー道路改修プロジェクト –2年目の工事の質は?–

シエラレオネでは、幹線道路から農村地域、また農村地域間を結ぶ道路はフィーダー道路と呼ばれて、地域に住む人々の生活を支えています。ただ、そのほとんどは土砂（ラテライト）で覆われているのみであり、その改良と機能の維持は担当部局である道路局・県議会の課題です。

フィーダー道路改修プロジェクトは、カウンターパートの能力向上を目指し、道路計画の策定から関係者間の協調、維持管理の導入等をテーマに事業を実施しています。

さて、1月から本格的に開始しているフィーダー道路改修工事ですが、6月半ばに入り、ようやく工事終了の目途が立ってきました。あれ？工事終了は5月末のはず、、、。そうです、3月まで順調だった工事がよもやの遅延です。原因は、例年より1か月も早く降り出した豪雨と重機の故障です。

重機の故障は深刻です。もともと、フィーダー道路改修工事を請け負う業者は中小業者が多く、重機を所有していません。そこで、重機をレンタルしなくてはならないのですが、状態の良い重機は鉱山会社に取りられ、状態の悪いものしか残っていない状態でした。施工監理者の道路局のエンジニアたちが手をつくして、知り合いの会社に声をかけてくれました。

「これは誰の責任というわけではない。みんなで対処していこう。」最近、主体的に業務を遂行している県議会エンジニア ハッサン氏の掛け声で首席行政官等とも協議をし、契約を延長することにしました。現状を把握し対処を検討するそのステップも施工監理者の重要な任務です。

工事と同時並行して、6月初旬にブルンジの JICA プロジェクトから研修生 10 人が CDCD プロジェクトの視察に来ました。カンビア県の視察をアレンジしたのが開発計画官です。自分たちの成果を見せるために、現場でも道路選定から改修までの経緯、維持管理まで、自分の言葉で説明しています。今までそれほど一緒に業務をしていたわけではなく、正直、びっくりしました。頼もしい限りです。この主体性は、伝道師の候補でしょうか？



ようやく直った道路工事に用いた重機。施工業者のオペレーターも安心して



ブルンジ研修生に維持管理方法を説明する地元住民（右から2人目）。

いよいよフィーダー道路改修プロジェクトのフェーズ1も終了します。プロジェクトでは、この経験を教訓としてまとめ、県開発ハンドブックとしました。さらにモデルとして全国に広まるようにフェーズ2を準備中です。

宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理担当）

1.2 研修計画・実施支援 —北部州5県を対象とした研修の実施—

今年度から研修計画では、「県議会の人事担当官が主体となって研修計画の作成・研修のフォローアップ・人材管理を実施できるようになること」に焦点をあてて支援をしています。昨年よりも時間はかかりますが、人事担当官が責任をもって業務に取り組む姿が多くみられるようになりました。

今年度の最初の研修として、北部州5県の調達官・財務担当官・内部監査官、計15名を対象にContract Management研修を実施しました。

今回はプロジェクトの対象県ではないボンバリ県、トンコリリ県、コイナドゥグ県からも県議会職員たちが参加しました。



研修の様子

研修は、講義とグループディスカッション、質疑応答といった構成です。講義では今までの業務の中で疑問に感じていたことや、理解不足であったことなど様々な質問が挙がりました。また、グループディスカッションでは、それぞれが意見を出し合い、話し合いは盛り上がりました。

特に、CDCDプロジェクトのカウンターパートであるカンビア県・ポートロコ県からの参加者は、パイロットプロジェクト、モデルワードプロジェクト、フィーダー道路プロジェクトの事例を他3県からの参加者に共有していました。CDCDプロジェクトの実施手順は、もちろん今回の研修で講義された正しいやり方で実施しています。しかし、実際にはCDCDプロジェクトとともに正しい実施手順でプロジェクトを実施していても、それが正しいのかどうか判断できなかったというカウンターパートもいたようで、講義を受け、改めて調達や契約などプロジェクトの実施手順を確認することができたようです。



グループワークの様子

10日間の研修で、調達分野では調達官、業者契約については、財務担当官、監査については、内部監査官が自身の専門分野の講義の場面で、業務経験をシェアしながら他の参加者をリードしていました。他

の職種の職員が同時に同じ研修を受講するという事は、あまり無いようで、意見を交換し業務内容を理解するいい機会にもなっていました。

研修最終日には、それぞれアクションプランを作成し、今後の業務に活かすことが確認されました。アクションプランは、各県の首席行政官によってモニタリングしてもらうことになっています。また、プロジェクトとしても今後は、フォローアップとしてカンビア県・ポートロコ県だけでなく、ボンバリ県・トンコリリ県・コイナドゥグ県へのモニタリングも計画しています。

反町専門家（研修計画・実施担当）

1.3 村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクト – 完工へ向けラストスパートー

CDCD プロジェクトの本来の目標である村落開発モデルの構築を目指して、コミュニティインフラ整備事業として、モデルワードプロジェクト支援を行っています。

そのモデルワードプロジェクト第一フェーズの6つの施設建設も佳境に入ってきました。既に雨季に入っている状況の中で、業者が決まらず、開始時期が遅れた事業を含めて2事業以外は、予定工期で完工予定です。

この背景には、必要であれば週末でも現場へ行って業者やコミュニティに話をしてくれる県議会職員の頑張りがあります。



完成が近づいたコミュニティヘルスポスト

<カンビア県>

ワード 124 中学校建設事業：少し工期に遅れが生じているため県議会職員が重点的に視察、業者への指導を行っています。7月上旬に完成を目指しラストスパートです。

ワード 129 コミュニティヘルスポスト完成事業：建物周辺の柵は何と住民が自分たちで作りました。予定通り6月中の完成予定です。

ワード 135 コミュニティセンター建設事業：もともと木の切り株だらけだった空き地に、3か月後、こんな立派なコミュニティセンターが完成しました（右写真）。6事業で工事が一番早く終わりました。

ワード 140 コミュニティセンター補修事業：業者の選定に時間がかかり開始が他の事業より遅かったのですが、週一回程度しか巡回できない県議会職員を住民が毎日工事をモニターする形でサポートし、業者も頑張らざるを得ない状況です。



完成したコミュニティセンター

<ポートルコ県>

ワード 200 小学校
建設事業：雨季の現
在は雨が降っていま
すが排水溝のセメン
トが乾くのを待って
完成です。住民への
施設維持管理研修も
行いました。



住民への維持管理研修



小学校建設現場

ワード 199 小学校
補修事業：現在は遅れ

を取り戻すべく、県議会職員も重点的に指導しています（7月上旬完成予定）。

池上専門家（村落開発担当）

1.4 ブルンジ第三国研修受け入れ

6月3日から6月10日の間、ブルンジのJICA 開発調査「ギテガ県生活改善のためのコミュニティ開発プロジェクト」の地方行政関係者・JICA 専門家計11名を第三国研修として本プロジェクトで受け入れました。

シエラレオネ滞在中、地方自治地域開発省、県議会、フィーダー道路局、プロジェクト現場訪問、現場視察、シエラレオネでJICA が支援する稲作プロジェクト、無償資金協力による給水プロジェクトの視察など、精力的にスケジュールをこなしていただきました。

ブルンジの皆さんは、パラマウントチーフの就任式にも出席し、シエラレオネ大統領への表敬、式典では、地方自治地域開発省大臣から、第三国研修参加者皆さんの紹介をしていただきました。

本プロジェクトのカウンターパートである県議会職員はブルンジの皆さん



プロジェクトの現場で住民代表者と意見交換するブルンジの皆さん



県議会での意見交換会



パラマウントチーフ就任式にて：パラマウントチーフ

(左) と握手するブルンジの皆さん

ん受け入れに精力的に動いてくれました。そんな職員の一の言葉が非常に印象的でした。「自分は日本の研修で研修を受けたときに、日本の皆さんにとっても親切にしてもらった。だから、私も外国からシエラレオネに来た皆さんには親切にしたい。」この言葉には感動しました。これも本邦研修の大きな成果といえるでしょう。

本プロジェクトでは、今後もアフリカの国同士のネットワーク強化、プロジェクトのより効果的な実施に少しでも貢献できるような協力・支援を続けていきたいと思えます。

平林リーダー

専門家の一日 – 「やる気」を高めたい –

ポートロコ県議会では朝、出勤してきたカウンターパートとの挨拶から一日が始まります。

CDCD プロジェクトの事務所は、県議会の中でも食堂に近く、多くのカウンターパートは、出勤後に食堂で朝食をとるので、そのついでにプロジェクトの事務所に立ち寄ります。朝の挨拶は、カウンターパートの仕事へのモチベーションを高めるために欠かせません。

事務所での業務が多いからか、女性だからか、呼びやすいからなのか、なぜか私の名前を呼ぶカウンターパートが多いです。名字だったり名前だったり、それぞれ気に入った呼び方で呼びます。毎日のことですが、あまりに何度も繰り返されるとさすがに恥ずかしくなります。

午後になると、県議会職員にも余裕がでてくるのかプロジェクトの事務所にノートパソコンを持った職員たちが現れます。とたんに事務所にぎやかになります。

世間話を始める職員、自分の写真を見せてくる職員、写真を撮ってくれと頼む職員など、忙しい時は勘弁してほしいと思うこともありますが、直接業務で関わらない職員とのコミュニケーションをとる絶好の機会を無駄にするわけにもいきません。そのお陰か、ポートロコ職員の性格や出身地など個人情報にも詳しくなりました。

ある日、神妙な面持ちでポートロコ県の人事担当官が事務所に来てくれと呼びます。行ってみると、昨日作成していた研修関連のファイルを紛失した（正確には保存したファイル名がわからない）とのこと。



県議会のカウンターパートと反町専門家



ブルンジミッションチームの皆さんに説明する県議会職員

彼自身が保存したファイル名がわからないから作成中のファイルを見せた私にファイル名を思い出してくれと言うのです。人事担当官とともに記憶をたどり奮闘します。さすがに彼の作成したファイルの保存名は覚えているはずもなく、お手上げです。

仕方なく最近使ったファイルを片端から開いていくことに。それにしても1つのフォルダに全てのデータが保存されるというすさまじい状態。こんな状態で見つかるのかと疑問に思いながらファイルを開き続けなんとか探していたファイルを発見。見つかった時は思わずカウンターパートと手を叩いて喜びました。

後日、得意顔の人事担当官に呼ばれて彼の事務所に行ってみると、フォルダに整理整頓されたファイルを見せてくれました。これで彼の仕事へのモチベーションはあがることでしょう。

マイペースなカウンターパートのモチベーションをどう上げるか、が専門家の腕の見せ所です。

反町専門家（研修計画・実施担当）

3. コラム：ごつつあんです！シエラレオネ 第22話 -こじやれたシエラレオネ料理との出会い-

今回は、シエラレオネ料理を上品にアレンジした一品が食べられるお店[Balmaya]を紹介します。

お店の1階はオープンスペースで平日のランチタイムはお客さんが沢山います。2階はその存在があまり知られていないのか、お客さんが少なく、ゆっくり食事を楽しめる穴場かもしれません。

お店のオーナーかマネージャーは、愛想のいい上品なシエラレオネの女性です。お店のスタッフもてきぱき働いています。日本では当たり前ですが、こちらではとてもまぶしく見える光景です。

シエラレオネの料理といえば、ゆでたキャサバの葉、ポテトの葉に肉や魚を加え、パームオイルをたっぷり入れたものと白いご飯が定番です。

人によっては、ちょっとくどいパームオイルは苦手、健康を考えると、パームオイルは控えたい、という方もいます。

そんな方にお勧めなのが、このお店のシエラレオネ料理。パームオイルはほとんど使っていませんから、くどさはありません。しかし、パームオイル入り料理をたらふく食べたい方には、物足りないかもしれません。



シエラレオネ料理を上品にアレンジした一品



お店の2階は空いています。

シエラレオネ料理のほかに、ボリュームたっぷりの肉料理、ランチタイムにはサンドウィッチやハンバーガーなどもありますよ。

こちらでは貴重なベーコン入りのサンドウィッチはおいしいですよ。



ボリュームたっぷりのチキン(左)とベーコン入りサンドウィッチ (右)

ちょっと町中から食べにいけるこのお店。是非試してみてください。

ひらしゅらの独断と偏見の評価：★★★★☆。料理って奥が深いですね～。

次号へ続く

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、田中専門家（業務調整）、宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理）、反町専門家（研修計画）、佐藤専門家（村落開発）、池上専門家（村落開発）：2012年6月実績

